
ホットニュース(平成18年度／第105号)

●まちのバリアフリー

先日、「まちのバリアフリー」をテーマにしたオープンスクール(公開授業)が行われた。

「まちのバリアフリー」をテーマにしたのは横浜市立南台小学校(港南区)の5年生の子どもたちで、以前、区役所に送った「障害のある人にも優しいまちになるように」という子どもたちの手紙をきっかけとして、区役所から、現在作成中の「港南区バリアフリー構想計画」に子どもたちの意見を生かしたいと、声をかけたことが始まりであった。そこで、横浜市の交通バリアフリー基本構想作成を受託している弊社からも2名がゲストティーチャーとしてオープンスクールに参加した。

学習の内容は、国土交通省の「交通バリアフリー教室」をはじめ、まちあるき体験として、実際に駅、道路、施設を車いす体験したり、アイマスクをしての視覚障害体験、また、その介助体験などを行い、この体験を踏まえ自分が感じたことをみんなで話し合い、自分たちがバリアフリーに対して何ができるのかを提言としてまとめていくものであった。

子どもたちからは活発な意見がでたほか、とりまとめも模造紙に意見を書いた付箋紙を貼り付けきれいに整理されるなど、我々が行うまち歩き点検ワークショップ顔負けのオープンスクールであったと感じた。

バリアフリー化への社会的関心が高まり、小・中学校の総合学習の対象として、このようにバリアフリーを学ぶ機会が増えているものの、いまだ大人たちは視覚障害者誘導用ブロック上に自転車を放置したり、看板を置くなど、バリアフリー化への意識は欠如していると感じる。すべての人がちょっとした心づかいをするだけで、かなりバリアがなくなる街になるはずである。

(第一計画部 鈴木 一郎)

●観光・交流のまちづくり／統一感のある観光地づくり

: 熊本県南小国町黒川温泉

黒川温泉は、熊本県の北東部にある南小国町にある温泉地である。JT B「るるぶ」の全国温泉ランキング2004で第3位に選ばれるなど、人気の高い温泉地である。また若い女性が好んで訪れることも特徴の一つとなっている。以前は、閑古鳥が鳴いていた温泉地をここまでメジャーにしたのは、統一・共同体という意識のもとに行われたまちづくりである。

○田舎の原風景づくりで癒しを演出

黒川温泉では「田舎の原風景」をコンセプトとして、街並み・景観の統一を行ってきた。旅館や民家などの街並みを統一するとともに、広葉樹の自然木をまちなかに植え、森の中の離れ家的に旅館がある風情を演出している。現在は、このような街並み・景観が観光客に喜ばれ、「癒しの温泉」として脚光を浴びている。

○温泉地全体でのPR

黒川温泉では旅館ごとの個別PRをやめ、黒川温泉全体としてPRを行っている。周辺の街道等において個々の旅館の看板を廃止し、黒川温泉全

体での共同看板を設置することや、黒川温泉全体でのCMを流すなど、共同体としてのPRを実施している。

○統一されたシステム

黒川温泉では、各旅館に個性ある露天風呂を設置するという取組みを進めてきた。その結果、黒川温泉といったら露天風呂というイメージができてきた。

また昭和61年からは、観光客にその露天風呂を満喫してもらうため入湯手形のシステムを開始した。1枚千二百円の入湯手形を購入すれば、宿泊していない客でも入湯手形1枚につき3つの旅館の露天風呂に入ることができる。これは、日帰り客にも利用できることから、人気のあるシステムとなっている。

○観光カリスマ

この黒川温泉が人気温泉地となった立役者は、新明館という旅館の店主の後藤哲也氏である。後藤氏は国土交通省が認定する観光カリスマにも選ばれている。後藤氏は「旅館1軒だけでなく、まち全体が良くならなければいけない」との理念のもと、黒川温泉のまちづくりを進めてきた。

黒川温泉では、統一感のある街並み・景観づくり、共同体としてのPR、入湯システムなどの取組みを徹底して実施した結果、現在のような人気を得ることができた。他の観光地においても、黒川温泉のような取組みが実施され、全国に魅力の高い観光地が増えていくことが期待される。

(第二計画部 内山 征)

=====